

「AI 時代の人間の創造性、想像力」

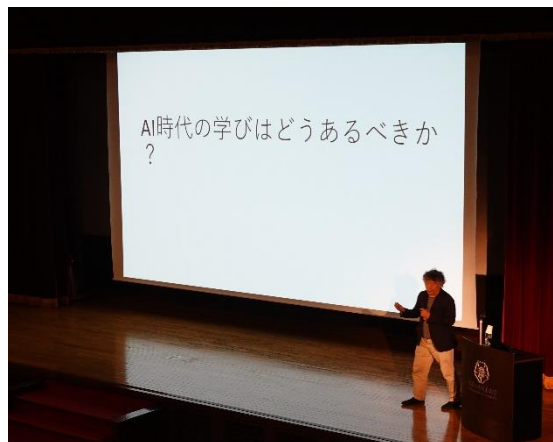
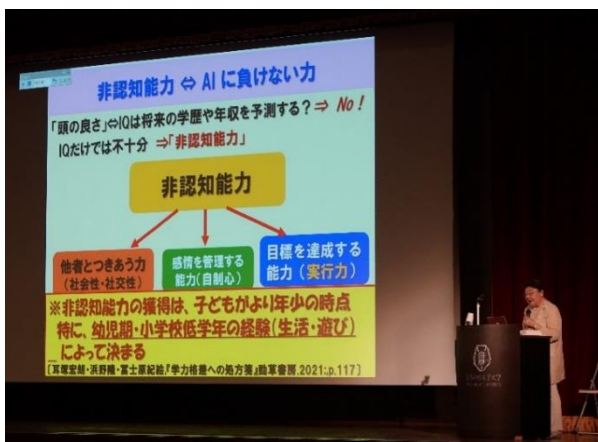
2024 年 8 月 24 日（土）に、本学名誉教授で発達心理学がご専門の内田伸子先生と脳科学がご専門で様々な分野でご活躍の茂木健一郎先生の講演及び対談が行われ、約 300 名の方にご参加いただきました。



内田伸子先生は、まず「学力格差は経済格差」であるという観点の是非について、幼児の読み書き能力習得についての調査結果を紹介されました。読み書き能力は家庭の所得とは関係がないものの、語彙習得には関係があり、子供の主体性を大事にした「共有型しつけ」が命令形の多い「強制型しつけ」に比べて語彙習得能力が高いという研究結果を示されその背景にあるものは何かを解説されました。また、「遊び」を通して子どもは「アクティブ・ラーニング（脳働楽習）」をすること、非認知能力の獲得は幼少期の経験（生活・遊び）によって決まること、そして AI 時代には、遊びを通して育まれる非認知能力の育成が重要だということをお話され、「肝心なのは問うのを止めないこと」というメッセージで講演を締めくくられました。

茂木健一郎先生は内田先生のご講演内容に全面的に賛同された上で、現在の生成

AI がどのように進化しているのかを複数の映像によって示され、AI をうまく活用して人間が創造性を発揮することが重要だとお話されました。また、世界の学力観と比べて日本の学力観は古く、AI 時代には従来のペーパーテストを重視した評価軸ではなく、多様な能力や知識を考慮していくことがより重要になってくることや、創造性を育むには身体を使った学びや遊びが重要であることをお話されました。さらに、海外では能力の高い子どもがホームスクーリングで自身に合った学習環境を整えていることが受け入れられているのに対し、日本では、集団一斉型の授業についていけないことに対しネガティブなイメージがあり、個に合った学びの多様性を担保することが重要であることなどをさまざまな資料をもとにお話されました。



対談・質疑応答の時間には、コーディネーター大森美香先生の進行のもと、お二人の講演者と参加者との盛んな意見交換がなされました。「AI に頼ると脳が衰えるのでは？」という参加者からの質問に対して、内田先生は、AI は膨大な情報を捌(さば)くという利点があるため、例えばグーグル翻訳をメタ認知を働かせて振り返り、推敲するというように、自分

で考える際の「ポジティブなツール」にするとよいと話されました。茂木先生は、将棋棋士の藤井聡太氏が、AI と対戦した後に振り返り、対策を練ることで自身を鍛えた例を示され、AI を活用した学びがあることを示されました。途中茂木先生が壇上からフロアに降りられて、参加者と対話される場面もあり、会場は多いに盛り上がりました。



講演後のアンケートには、102 名の方が回答くださり、「満足」が 90%,「やや満足」が 10%と多くの方にご満足いただけたことがうかがえるものでした。アンケートの記述には、「お二人の熱意溢れる講演内容、大変おもしろく勉強になりました」「綿密なお話の内田先生、自由に要点をしっかりお話される茂木先生、バランスがよく大変楽しい講演でした」「とても分かりやすく、堅苦しくなく、心に響く講演・対談でした」など多くの声が寄せられ、聴衆の皆様にとって学びの多い充実した時間となったことがうかがえ、主催者側としてもありがたい限りでした。

講演者のお二人の先生とご参加くださった皆様に心より御礼申し上げます。